

IV 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立 駅家小 学校

年目	中期経営目標	重点	分類	短期経営目標	目標達成に向けた取組	評価指標	中間評価（10月1日）			最終評価（2月末）					
							□指標に係る取組状況	プロセス評価	達成評価	改善方策	□指標に係る取組状況 ◎短期（中期）経営目標の達成状況	プロセス評価	達成評価	総合評価	改善方策
5	学ぶ楽しさを実感できる児童の育成	★	継続	粘り強さや自己調整力を高め、自分で考える学びをすすめる	授業において、選択肢や振り返りを工夫することで児童の学びの質を高める。	「自分で考えることが楽しい」と答えた児童の割合80%	「自分で考えることが楽しい」と答えた児童の割合83%	3	3	教科や単元のねらいにせまることができる選択肢や学習環境づくりの設定を行い、児童自ら学びを進めることに楽しさを見出せるようにしていく。					
					マイプラン学習の単元を学期に1回は設定し、教職員間で取組内容や成果・課題等の交流を図る。	「取組等の交流を通して、自分の取組を見直した」と答えた教職員の割合90%	「取組等の交流を通して、自分の取組を見直した」と答えた教職員の割合97%	3	3	付けたい力、育てたい児童の姿を共有し、より深い教材研究を行うことで、力や児童の学びを見取る力を高め合っていく。					
1	生きる喜びを実感できる児童の育成		新規	自分で考えて行動できたことを評価し、自己有用感を高める	「クラスや学年、学校の役に立つ。」という視点で掃除や当番、係活動を工夫する。	「人の役に立つことを意識して、自分で考えて行動することができた。」児童の割合70%	「人の役に立つことを意識して、自分で考えて行動することができた。」児童の割合82%、「自分はクラスの人の役に立っていると思う。」児童の割合70%	3	3	人の役に立つ行動をしている児童を、教師がしっかり見取り、クラスや学年で紹介することで価値づけを図る。その上で、児童が相互に互いのよさや頑張り気付くことができるような風土づくりをする。児童会とも連携を図り、学校全体としての取組を強化する。					
					クラスや学年、学校のために頑張っていることを認め合う活動（いいところ見つけ等）を取り入れる。	「自分はクラスの人の役に立っていると思う。」児童の割合70%	「人の役に立つことを意識して、自分で考えて行動することができた。」児童の割合70% 飾りの会等いいところ見つけを取り入れたり、人の役に立つ行動を呼びかける児童会目標を設定したりした。								
2	地域や学校に貢献できる児童の育成		継続	地域の一人、学校の一員として何ができるか自分で考えて行動する	ボランティア週間を学期に1回以上設定し、児童自身が校内や地域でできる活動を考え、児童のがんばりを奨励・顕彰する。	児童自身ができる活動を考え、ボランティア週間に8割以上実施できた児童（70%以上）	ボランティア週間に8割以上実施できた児童の割合44.8% ボランティア週間を学期に1回以上設定し、活動に取り組みさせた。	2	3	どの学年もボランティア週間の意識づけが低いので、学年・学級実態に応じて、ボランティア週間の前に活動の内容を考えたり活動の意欲付けを行ったりする。					
1	全職員で進める働き方改革		新規	前年度よりも、1つでも業務改善をすすめる。	学期に1回、業務改善のアンケートを行い、各部会等で業務改善に向けて協議を行う。	前年度よりも業務改善が進んだ項目（1つ以上）	会計や会議資料のデジタル化などで業務改善が進んだ。業務改善が前年度よりは進んだと感じる職員の割合97% 学期に1回、業務改善のアンケートを実施し、各部会等で協議を行った。	4	4	改善された業務を職員に周知するとともに、1学期の業務改善アンケートで職員から出た課題と改善策を生かして更なる業務改善を進める。					

[プロセス評価の評価基準]

評点	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。

[達成評価の評価基準]

評点	評価基準
5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。

[総合評価の評価基準]

評点	評価基準
5	100%以上の達成度 十分に目標を達成できた。

4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。

4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。
3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。
2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。
1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。

4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった。